

令和3年度 大田区立大森第五小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

本校学区は、旧東海道沿いに発展した街と国道沿いに林立するマンションで構成され、新旧の住民が調和して共生している地域である。児童数は、308名で、固定級(9名在籍)を有している。学力は区内ではほぼ中間に位置しており、学力向上が課題の一つとなっている。大田区学習効果測定の結果を学力向上委員会にて分析し、授業改善プランを作成する。管理職は改善プランの内容を授業観察の視点とすることを明らかにし、指導・助言していく。また、本年度の校内研究(国語・算数)を通して、思考力・表現力の伸長を目指し、児童の学力向上を図っていく。また、区の「特色ある教育活動実践校」、都の「フレンドシップ・パラリンピック教育アワード校」として「ブルー・ライオンズプロジェクト」に学校全体で参画することで、児童にボランティアマインドをばぐむとともに、生命尊重の心・態度、持続可能な社会を実現する社会参画意識の基礎を育てる。今年度の重点目標を「児童の自己肯定感を高める」とし、組織的にその実現に向けて取り組む。コロナ禍においては通常の教育活動を実施していくことが難しいが、学習のねらいを明確にし、規模を縮小したりやり方を工夫したりするなどして教育目標達成に迫っていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート項目「学習が楽しい」に対し、「当てはまる」以上に回答した児童の割合。	4:90%以上	A	10
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのしみづくり」を生かした体験活動や授業改善等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	B	3	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:80%以上	C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	D	0	
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力が意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート項目「授業がよく分かる」に対し、「当てはまる」以上に回答した児童の割合。	4:90%以上	A	11
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:85%以上	B	2	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:80%以上	C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:80%未満	D	0	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート項目「自分から進んで挨拶できた」に対し、「当てはまる」以上に回答した児童の割合。	4:60%以上	A	11
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	3:50%以上	B	2	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:40%以上	C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:40%未満	D	0	
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート項目「体力がだんだんついてきたと思う」に対し、「当てはまる」以上に回答した児童の割合。	4:80%以上	A	12
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:70%以上	B	1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2:60%以上	C	0	
		業間体育「元氣もりりタイム」を活用し、運動好きの児童を育て、児童の体力向上を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満	D	0	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケート項目「学校は一人一人の子どもに基礎基本が定着するよう、指導方法の工夫に努めている」に対し、「当てはまる」や「やや当てはまる」と回答した割合。	4:90%以上	A	11
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:80%以上	B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:70%以上	C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	1:70%未満	D	0	
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケート項目「学校は、学校行事などに地域の協力を得ている」に対し、「当てはまる」や「やや当てはまる」と回答した割合。	4:90%以上	A	11
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:80%以上	B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:70%以上	C	0	
		夏季わくわくスクールにおいて、PTAや本校保護者が主催する講座を増やし、保護者や地域と協働して子どもを育てる。	4:当該講座数が令和元年度並みの水準だった。 3:当該講座数が令和元年度をやや下回った。 2:当該講座数が令和元年度を大きく下回った。 1:当該講座数が成立しなかった。	2	1:70%未満	D	0	
オリパラ教育	大田区のオリンピック・パラリンピックアワード受賞校として、ブルー・ライオンズプロジェクトに参画する。	「種別別チャレンジプログラム」の活用により、児童・生徒の興味・関心を高め、パラリンピックの魅力を伝える。	4:卵や幼虫、成虫の観察を全学級で実施した。 3:80%以上の学級で実施した。 2:60%以上の学級で実施した。 1:60%未満であった。	4	児童アンケート項目「種別別の魅力を体験した」と回答した児童の割合。	4:70%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%未満	2	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○「自己評価項目」は、A、B、C、Dの4段階で評価し、Dは最も低い評価とする。